

宮崎市男女共同参画センター「パレット」がオープン!

12月1日、男女共同参画に関する啓発やDV(ドメスティックバイオレンス)の相談などに応じる宮崎市男女共同参画センター(愛称「パレット」)が宮崎駅東3丁目に開館しました。さまざまな講座やイベントが開催されるほか、育児相談や親子講座を行う地域子育て支援センターも併設され、幼児向けの遊び場も開放しています。



もっと野菜を食べて健康寿命日本一に!

12月12日、宮崎の美味しい野菜をテーマに、食生活改善や野菜の消費拡大について考える「健康づくりシンポジウム」が開催されました。野菜ソムリエによる食育教室や宮崎いきいき健康(けんこう)体操の実演、(株)タニタヘルスリンクの管理栄養士による基調講演などが行われました。会場の皆さんで、健康寿命日本一宣言の唱和も行いました。

Miyazaki Topics

宮崎市旬の話題 “みやとピ”



イルミネーションが点灯! 第2章のはじまり

12月4日、宮崎の冬の風物詩となった「イルミネーション・フラワー・ガーデン」の点灯式がフローランテ宮崎で開催されました。全面LED電飾を導入した今回は「第2章のはじまり」と銘打ち、これまでにない鮮やかな光が音楽に合わせて動き出す仕掛けも。12メートルのタワーや、光の流れるトンネルが設置された園内では多くの方が幻想的な空間を楽しみました。

移住コンシェルジュが宮崎市で暮らす価値を発信!

12月16日、宮崎市移住センターが開所しました。市役所内にあるセンターには、移住コンシェルジュが常駐します。食や人、生活環境など、宮崎市の魅力や暮らす価値を発信するほか、移住希望者が描く人生設計に寄り添いながら、住まいや仕事に関する相談に応じていきます。(詳しくは、12・13ページに掲載)



↓平成14年2月号が電子書籍で読める!



長嶋茂雄氏を宮崎市名誉市民として顕彰します

今回の旅行先 平成14年

長嶋茂雄氏が名誉市民に!

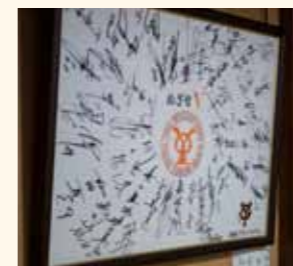
今回発掘するのは、平成14年2月号の「長嶋茂雄氏を宮崎市名誉市民として顕彰します」です。市では、読売巨人軍の元監督・長嶋茂雄氏(現終身名誉監督)に宮崎市名誉市民の称号を贈ることに決定。同氏の66歳の誕生日だった2月20日に推戴(すいたい)式を行いました。



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。



店内にたくさん飾られた写真には、うどんを食べる選手時代の長嶋さんの姿も見られます。いなり寿司も大好きだそうです。



長嶋さんが監督だった1993年の宮崎キャンプ時に書かれた、読売巨人軍のサイン。店奥の座敷席に飾られています。



名誉市民推戴式での長嶋さん。「第二のふるさとのような宮崎市。光栄に思います」と述べられました。

キャンプで結ばれた縁 ~長嶋さんと宮崎市~

ここでは、長嶋さんと親交の深い「釜あげうどん 重乃井」の伊豫展子さんの話や、写真を交えて振り返ります。



昨年店に来てくださった時も、頬は相変わらずピンク色でお変わりなく、うれしく思いました!

釜あげうどん 重乃井 いよのぶこ 伊豫 展子さん(65歳)

お客様の多くは、長嶋さんご縁のある方や、長嶋さんが来られていたことで店を知ってくださった方です。宮崎がキャンプ地として有名になったのも、長嶋さんがたくさんの人に宮崎の魅力を伝えてくださったおかげ。本当に感謝しています。

長嶋さんは40年以上前から、宮崎キャンプのたびに店に来てくださっています。選手時代は当時の川上監督らと、監督時代は1人でふらりと来られることもありました。長嶋さんはいつも頬がピンク色で、服装も赤やピンクなど明るい色ばかり。それがまたよくお似合いなのもあって、長嶋さんが入って来られると同時に店がパツと明るくなるんですよ。ファンの方と話をするのがとにかく大好きで、店でもお客様とおしゃべりを楽しまれています。市民の皆さんの中には、長嶋さんとお話された方がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

地名むかしむかし 2015 ⑨ 「くどみ」

昭和35年4月号から1年間連載されていた「地名むかしむかし」。市内のいろいろな地名の由来を当時の文章のままお届けします。

昭和36年1月号より



足利尊氏の供養塔

この庄園はもと鳥羽天皇の皇女八条院璋子内親王の領地であったが、八条院の死後官地となり、さらに興国二年(一三四一)に京都嵯峨の天竜寺が建立されるに当たり、足利尊氏はこの地を夢窓国師に与え天竜造営の料所となした。「中略」思うに国富とか岡富、恒富などという地名は古くから各地にあり、この富は住すなわち住居地の意味だという説もあるから古い地名に佳字をあてたのであろう。

国富というの宮崎の市街地から青島に行く途中の地名で、もと国富本郷といったところであるが、明治二十二年に赤江村ができた時には本郷北方、本郷南方の両村に分かれていた。「中略」鎌倉時代の文書である建久八年(一一九七)の記録によると、この地方は国富本郷を中心に宮崎、那珂、児湯の三郡にまたがる国富庄という広さ千三百八十二町におよぶ大庄園があったところである。